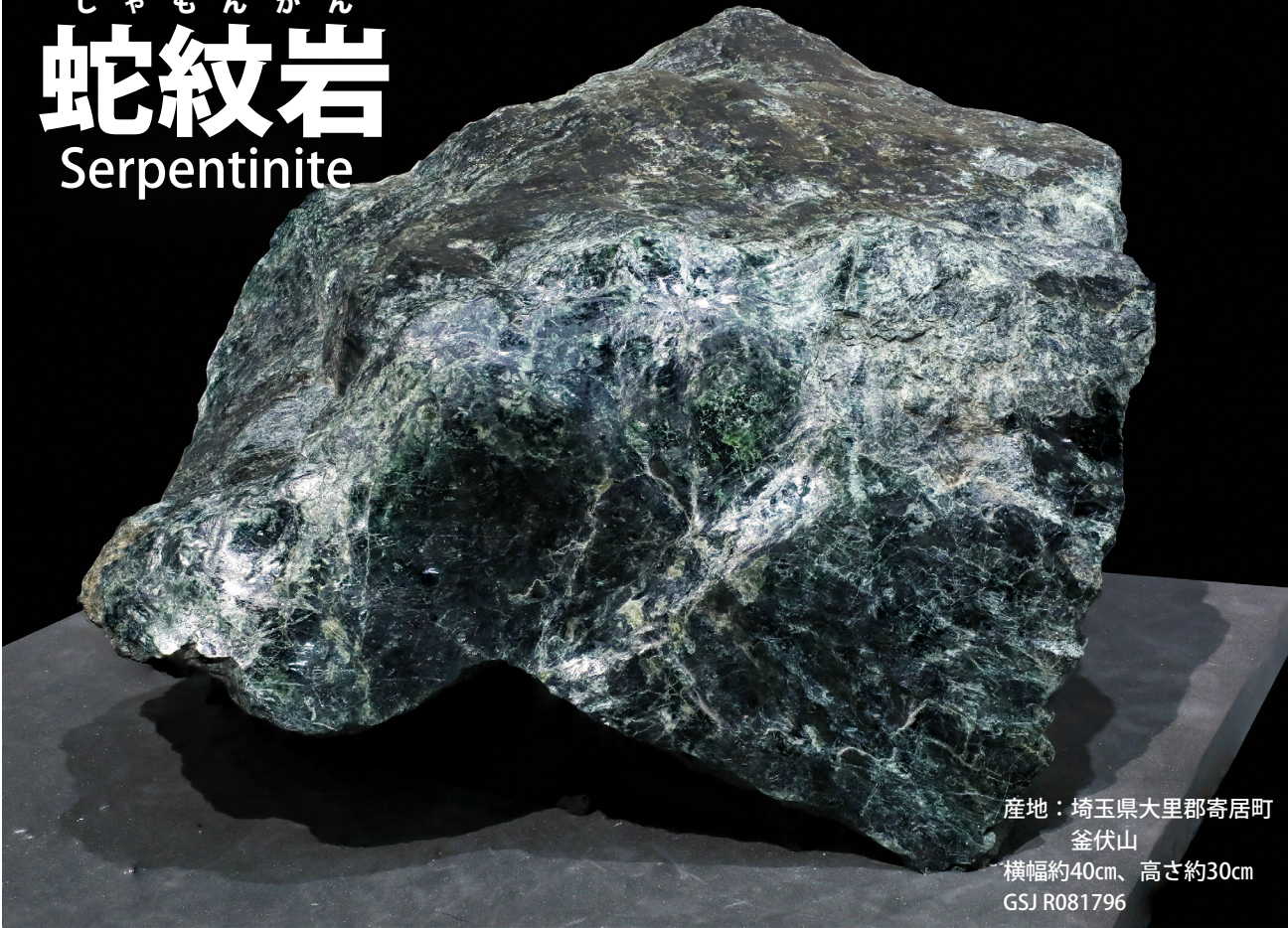


じゃもんがん
蛇紋岩
 Serpentinite



産地：埼玉県大里郡寄居町
 釜伏山
 横幅約40cm、高さ約30cm
 GSJ R081796

蛇紋岩は、もともとは地下深くのマントルやマグマだまりの底にあったかんらん岩や輝石岩が水と反応することでできる岩石です。表面の模様が蛇の皮のように見えることから「蛇紋岩」と名づけられました。表面がツルツルしているのが蛇紋岩の特徴で、標本を触ってみると、しっとりとした手触りがあります。この質感は蛇紋岩の構成鉱物に由来します。その構成鉱物は、一般的には $Mg_3Si_2O_5(OH)_4$ という化学式で表される蛇紋石が主になります。この蛇紋石は薄い層状や繊維状の結晶で、それらが緻密に組み合わさることで光沢感を生み出しています。蛇紋岩には他にも、もとの岩石に含まれていたスピネルやかんらん石、輝石が部分的に残っていることがあるほか、蛇紋岩化する過程で生じた磁鉄鉱^{じてっこう}やブルース石^{かっせき}、滑石^{りよくていせき}、緑泥石^{かまふせやま}、鉄ニッケル鉱物などが含まれます。

この標本は埼玉県寄居町の釜伏山で採取された蛇紋岩です。埼玉県寄居町周辺には、沈み込む海洋プレートによって一度地下深くまで移動した堆積岩や海山・海台起源の岩石が分布しており、釜伏山の蛇紋岩もその仲間だと考えられています。深い緑色を示すきれいなものは石材として利用されることがあり、国会議事堂にも埼玉県の蛇紋岩が使用されています。

(地質情報研究部門 片桐星来)